

# 第3章 | 大学の教育指導と学生のエンゲージメント

椿 明 美 (札幌国際大学短期大学部)

## 1. 研究の目的と方法

### 1-1. 研究の目的と分析の枠組み

大学の教育指導と学生のエンゲージメントについてここでは検討したい。大学が提供している教育や指導と学生のエンゲージメントは、アウトカムすなわち学生の満足度にどのような影響を与えているのだろうか。これらの関係について、本章では図3-1に示すような分析を行うことにする。

まず、学生の大学へのエンゲージメントを探究してみたい。「学習時間」、「在学時の出席と成績」、「多面的なエンゲージメント」としては学生自身の授業や活動への取り組み度合（熱心に取り組んだか）はどのようであったかを分析する。

次に、大学における教育の充実を検討する。「授業の充実」、「カリキュラムと教育支援」つまり、授業の教育手法の充実はどうであったのかを、学生のエンゲージメントと対比しながら検討していきたい。

これらの結果を踏まえ、学生のアウトカム、「総合的に見て大学に満足しているか」という満足度への回答と「学習時間」、「在学時の出席と成績」、「多面的なエンゲージメント」との相関関係、および、同満足度と「授業の充実」、「カリキュラムと教育支援」との相関関係を見ることで、大学への満足度を規定する学校生活とは何かを分析する。

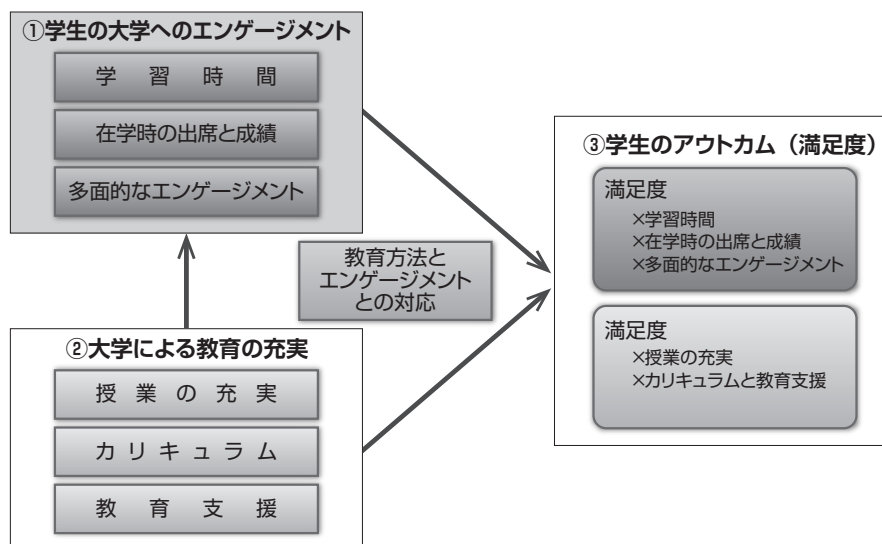


図3-1 分析の枠組み

### 1-2. 大学教育と学生のエンゲージメント

大学教育の質保証が問われる中、学生のエンゲージメントが注目されるようになった。小方(2008)は、アメリカにおけるエンゲージメント研究を整理する中で、学生の能力獲得や成績等のアウトカムを規定する決定的な要素は、学生個人のエンゲージメント、すなわち学生の学びへの取組・関与であ

るとする (Pascarella and Terensini, 2005) 先行研究等を提示し、さらに、葛城 (2006) の教育の成果は、  
 どのような教育を提供するかより、実際に学生がどのような学習を行ったかに規定される点で日米が整合  
 的であるとしている。

また堺 (2015) は、学生のエンゲージメントを規定する要因として、学生生活の充実は、「教育満  
 足」と「学生間交流」が強く影響するとし、教員の学生に対する関与の仕方がこれらを高めることに  
 繋がると示唆している。

そこで本研究ではこれらの研究成果を援用し、学生のエンゲージメントを授業や活動に対する関わり  
 として、学生の大学の授業や活動への取組状況と教育機関が用意している教育プログラムや教育方  
 法・指導の充実の観点から大学生活への満足度との相関関係を分析することとする。分析方法として  
 は、「観光」、「人文・ビジネス」、「国家資格 (福祉・保育)」、「国家資格 (栄養士・管理栄養士)」の 4  
 分野において、その差異を探り特徴を見てみることにする。

## 2. 大学での学習と成績

### 2-1. 在学時の学習時間

学生達は在学期間中、授業以外の時間でどの程度の学習時間を確保していたのだろうか。表 3 - 1  
 に示すように「授業以外での学習時間 (授業期間中)」の学習状況で「ほぼ毎日勉強をしていた」と回  
 答した割合 (5 + 4 の計) をみると、「観光」17.5%、「人文・ビジネス」19.2%、「国家資格 (福祉・保  
 育)」15.5%、「国家資格 (栄養士・管理栄養士)」29.7% で「国家資格 (栄養士・管理栄養士)」が最も  
 よく勉強していた。また、反対に「授業以外ほとんど勉強しなかった」(1 + 2 の計) をみると、「人  
 文・ビジネス」が46.8%で授業以外の勉強をしていないことがわかる。

分野別の学習時間の特徴として、「人文・ビジネス」は授業以外で勉強をしない者が半数近くおり、  
 反面、毎日勉強をするのは 2 割弱である。また、「観光」も「人文・ビジネス」に近い傾向がみられた。

授業以外の時間もよく勉強する「国家資格 (栄養士・管理栄養士)」, あまり勉強時間を確保してい  
 ない「人文・ビジネス」と「観光」というように、分野別の特徴が学習時間に現れている。

表 3 - 1 授業以外での学習時間 (授業期間中) (%)

	1 授業以外 ほとんど勉強 しなかった	2	3	4	5 授業以外でも ほぼ毎日勉強 していた	計	n
観光	20.6	23.8	38.1	14.3	3.2	100.0	63
人文・ビジネス	21.7	25.1	34.0	14.3	4.9	100.0	406
国家資格等 (福祉・保育)	17.8	16.7	50.0	11.1	4.4	100.0	90
国家資格 (栄養士・管理栄養士)	12.8	12.8	44.7	19.1	10.6	100.0	47
計	20.3	22.8	37.6	14.2	5.1	100.0	606

### 2-2. 授業への出席状況

授業への出席状況に分野別の特徴はみられるのだろうか。表 3 - 2 のとおり、「授業への出席」につ  
 いて 4 段階尺度で尋ねたところ、単位認定にかかわる 1 「欠席は 1/3 以上」、2 「欠席は 1/4 くらい」、

3「欠席は1/5」,そして4「ほとんど出席」の割合をみると,「ほとんど出席」は,「観光」の74.6%,「人文・ビジネス」の65.0%,「国家資格(福祉・保育)」の72.2%,「国家資格(栄養士・管理栄養士)」の82.6%であった。

「国家資格(栄養士・管理栄養士)」が最も高く,授業以外の勉強の時間を確保し,授業にもほぼ出席している。「人文・ビジネス」は授業以外の学習時間の確保は最も低く,授業出席率も低い傾向にあることがわかる。

表3-2 授業への出席 (%)

	1 欠席は 1/3以上	2 欠席は 1/4くらい	3 欠席は 1/5以下	4 ほとんど 出席	計	<i>n</i>
観光	1.6	4.8	19.0	74.6	100.0	63
人文・ビジネス	2.2	10.3	22.4	65.0	100.0	406
国家資格等(福祉・保育)	3.3	6.7	17.8	72.2	100.0	90
国家資格(栄養士・管理栄養士)	0.0	6.5	10.9	82.6	100.0	46
計	2.1	8.9	20.5	68.4	100.0	605

### 2-3. 在学時の成績

分野別の在学時の成績はどうであったのだろうか。表3-3に示すように,在学時の成績を5段階で回答してもらった。成績が「上の方」だった5+4の計を成績上位者としてみると,「観光」が59.3%,「人文・ビジネス」48.9%,「国家資格(福祉・保育)」40.2%,「国家資格(栄養士・管理栄養士)」26.7%であった。

成績上位の割合が最も高かったのは,「観光」で6割近くの者が上位と回答していた。逆に,「国家資格(栄養士・管理栄養士)」の成績は「下の方」と答えた割合が4割近くであり,成績上位者も3割に満たなかった。「国家資格(栄養士・管理栄養士)」は,授業以外の学習時間が最も長く,出席状況もほぼ出席するなど勉強熱心であることがうかがえるが,成績に関しては,厳しい評価がくだされているようである。

表3-3 在学中の成績 (%)

	1 下の方	2	3	4	5 上の方	計	<i>n</i>
観光	1.7	3.4	35.6	35.6	23.7	100.0	59
人文・ビジネス	2.2	8.9	40.0	29.5	19.4	100.0	403
国家資格等(福祉・保育)	6.9	8.0	44.8	27.6	12.6	100.0	87
国家資格(栄養士・管理栄養士)	28.9	8.9	35.6	11.1	15.6	100.0	45
計	4.9	8.2	39.9	28.5	18.5	100.0	594

## 3. 大学での授業の特徴

### 3-1. 教育プログラムの充実

在学時の大学での教育プログラムはどのように充実していたのか。1「全く充実していなかった」,5「とても充実していた」の5段階尺度で答えたものを項目ごとに見てみる。

### 3-1-1. 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導

高校までの学習を学び直す授業や指導が充実していたかを尋ねたところ、図3-2に示すように「充実していた(4+5)」と回答した者が26.9%と約4分の1いる。反対に「充実していなかった(1+2)」と回答したのが27.1%、また約半数は、高校での学習の学び直しについてどちらでもないという回答をしている。

### 3-1-2. 大学での学習方法を学ぶ授業

次に、レポートの書き方など大学での学習方法を学ぶ授業が充実していたかをみると、図3-3に示すように「充実していた(4+5)」が44.3%で、半数近くの学生が大学での学習方法を授業等で受講する機会に恵まれていたことがわかる。

### 3-1-3. 知識を広げ教養を身に付ける授業

知識を広げたり教養を身に付けたりする授業の充実度はどうだろうか。図3-4に示すように、「充実していた(4+5)」と回答したのは70.5%と高く、グラフでも明確であるように、知識を広げ教養を身に付ける授業は充実傾向にある。「充実していなかった(1+2)」は4.5%と僅少である。

### 3-1-4. 外国語を修得するための授業

図3-5に示すように、外国語を学ぶ授業の充実度は、「充実していた(4+5)」は39.2%と約4割。「充実していなかった(1+2)」は21.8%であった。

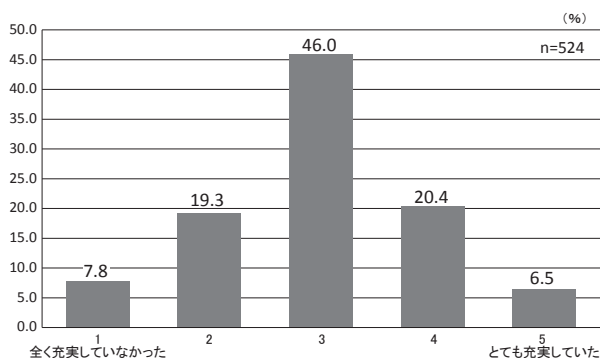


図3-2 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導

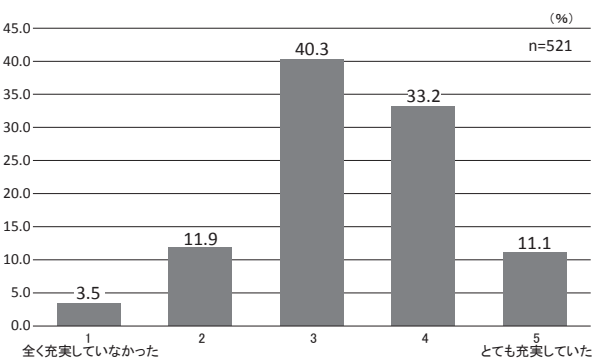


図3-3 大学での学習方法を学ぶ授業

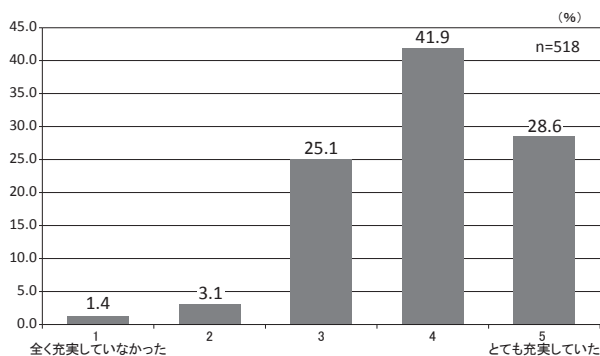


図3-4 知識を広げ教養を身に付ける授業

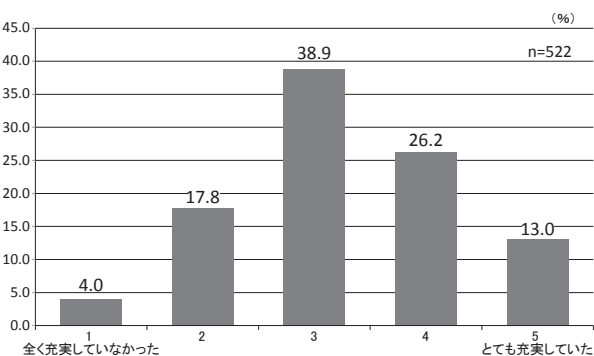


図3-5 外国語を習得するための授業

### 3-1-5. 専門の授業（講義や演習）

大学での専門の授業の充実度はどうだろうか。図3-6に示すように、「充実していた（4+5）」との回答は75.6%と高く、反面「充実していなかった（1+2）」は3.9%であり、大学の専門の授業は充実度が高いことがわかる。

### 3-1-6. インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験

大学が用意したインターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験の状況はどうであったかを図3-7で見ると、「充実していた（4+5）」との回答は、35.8%、「充実していなかった（1+2）」は27.7%であった。

### 3-1-7. 資格取得に関わる準備・指導

次に、資格取得に関わる準備や指導について図3-8で見ると、「充実していた（4+5）」は53.2%で、「充実していなかった（1+2）」は18.2%、半数以上が「充実していた」と捉えている。

### 3-1-8. 卒業論文、卒業制作、卒業発表

卒業論文、卒業制作、卒業発表についてどう見ていたかを図3-9で見ると、「充実していた（4+5）」は61.7%で、「充実していなかった（1+2）」は14.0%であった。専門の授業に続き、6割以上が「充実していた」と捉えている。

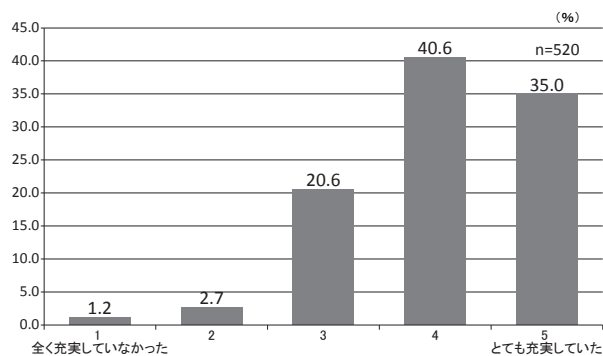


図3-6 専門の授業（講義や演習）

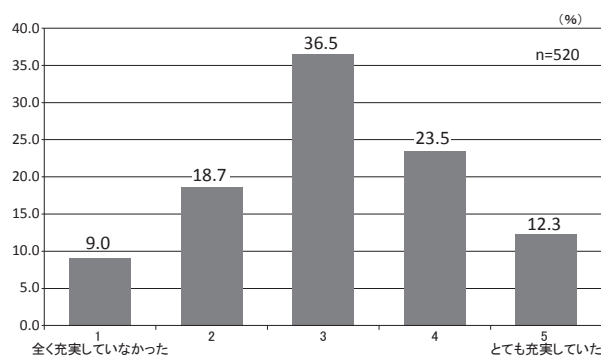


図3-7 インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験

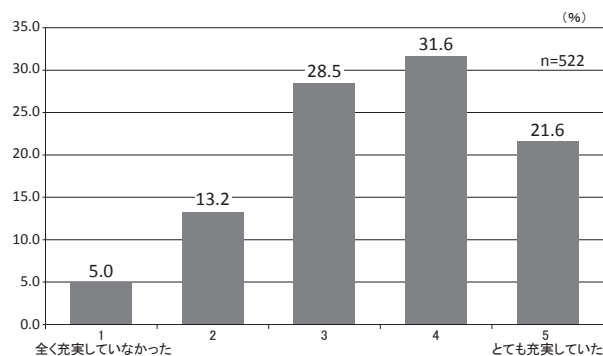


図3-8 資格取得に関わる準備・指導

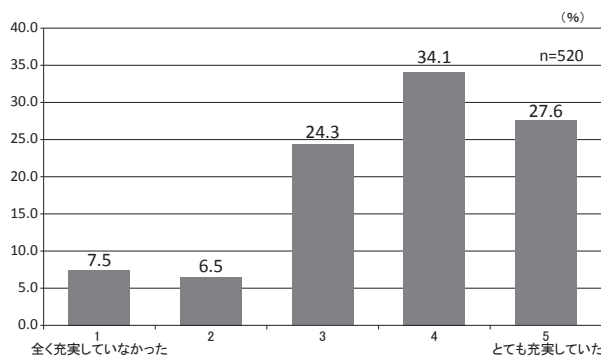


図3-9 卒業論文、卒業制作、卒業発表

### 3-1-9. 海外研修や留学のための機会や指導

海外研修や留学のための機会や指導について図3-10で見ると、「充実していた(4+5)」は25.2%、「充実していなかった(1+2)」は37.1%で、本調査10項目の中で、充実してないと捉えている者が最も多いことがうかがえる。

### 3-1-10. 研究室・ゼミでの授業や活動

研究室・ゼミでの授業や活動について図3-11が示すように、「充実していた(4+5)」は66.2%、「充実していなかった(1+2)」は9.9%であった。研究室・ゼミでの授業活動に関しては、7割近くが「充実していた」と捉えており、卒業生から評価されていることがわかる。

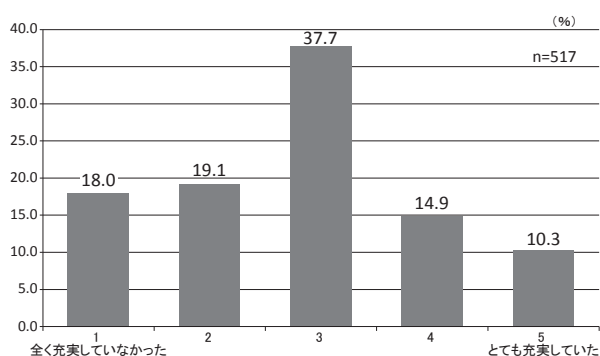


図3-10 海外研修や留学のための機会や指導

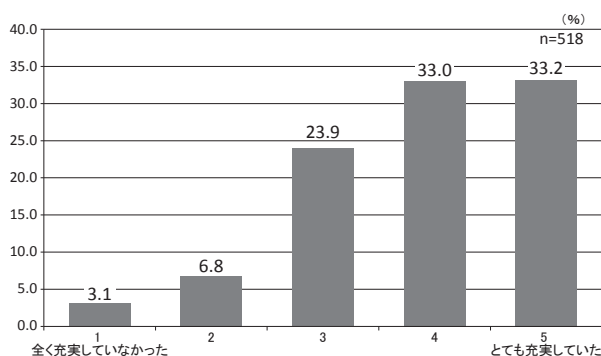


図3-11 研究室・ゼミでの授業や活動

大学での教育プログラムの充実度は、「知識を広げ教養を身に付ける授業」、「専門の授業(講義や演習)」、「研究室・ゼミでの授業活動」が充実していたと捉えられ、「高校までの基礎学力を学び直す授業や指導」、「インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験」、「海外研修や留学のための機会や指導」において充実度が低く捉えられていることがわかる。(表3-4)

表3-4 大学での教育プログラムの充実

(%)

	1 全く充実 していなかった	2	3	4	5 とても 充実していた	計	n
① 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導	7.8	19.3	46.0	20.4	6.5	100.0	524
② 大学での学習方法を学ぶ授業	3.5	11.9	40.3	33.2	11.1	100.0	521
③ 知識を広げ教養を身に付ける授業	1.4	3.1	25.1	41.9	28.6	100.0	518
④ 外国語を習得するための授業	4.0	17.8	38.9	26.2	13.0	100.0	522
⑤ 専門の授業(講義や演習)	1.2	2.7	20.6	40.6	35.0	100.0	520
⑥ インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験	9.0	18.7	36.5	23.5	12.3	100.0	520
⑦ 資格取得に関わる準備・指導	5.0	13.2	28.5	31.6	21.6	100.0	522
⑧ 卒業論文, 卒業制作, 卒業発表	7.5	6.5	24.3	34.1	27.6	100.0	522
⑨ 海外研修や留学のための機会や指導	18.0	19.1	37.7	14.9	10.3	100.0	517
⑩ 研究室・ゼミでの授業や活動	3.1	6.8	23.9	33.0	33.2	100.0	518



## 3-2. 分野ごとの授業の充実

次に、大学での教育プログラムの充実度を、「観光」、「人文・ビジネス」、「国家資格（福祉・保育）」、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」の4分野別に、1「全く充実していなかった」、5「とても充実していた」の5段階尺度で回答したものの平均値を、表3-5を見ながらその特徴を見てみる。

### 3-2-1. 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導

「観光」2.88, 「人文・ビジネス」2.96, 「国家資格（福祉・保育）」2.94, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.37で、高校までの基礎を学び直す授業の充実度は全体的に低い傾向にあり、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が若干高い。

### 3-2-2. 大学での学習方法を学ぶ授業

「観光」3.32, 「人文・ビジネス」3.41, 「国家資格（福祉・保育）」3.47, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」2.93で、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が4分野において最も低い。

### 3-2-3. 知識を広げ教養を身に付ける授業

「観光」4.00, 「人文・ビジネス」3.92, 「国家資格（福祉・保育）」3.95, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.91と、4分野においてほぼ充実している傾向にある。

### 3-2-4. 外国語を習得するための授業

「観光」3.37, 「人文・ビジネス」3.27, 「国家資格（福祉・保育）」3.29, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.07と、4分野において大差はなく充実度は高くもなく低くもない。

### 3-2-5. 専門の授業

「観光」3.93, 「人文・ビジネス」4.00, 「国家資格（福祉・保育）」4.22, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.33で、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が最も高く、次いで「国家資格（福祉・保育）」で、国家資格系の専門の授業に対する充実度は高い。

### 3-2-6. インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験

「観光」が3.08, 「人文・ビジネス」が2.98, 「国家資格（福祉・保育）」3.48, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.48で、実習や就業経験を伴う授業の充実度は「人文・ビジネス」が低い。

### 3-2-7. 資格取得に関わる準備・指導

「観光」3.38, 「人文・ビジネス」3.28, 「国家資格（福祉・保育）」4.11, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.33で、国家資格系で充実度が高く、「観光」、「人文・ビジネス」と比較して、1ポイント以上の差がある。

### 3-2-8. 卒業論文, 卒業制作, 卒業発表

「観光」3.58, 「人文・ビジネス」3.83, 「国家資格（福祉・保育）」3.95, 「国家資格（栄養士・管理

栄養士)」2.17となっており、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が極端に低く、卒業論文等の授業は充実度は低い傾向にあることがうかがえる。

### 3-2-9. 海外研修や留学のための機会や指導

「観光」3.34, 「人文・ビジネス」2.85, 「国家資格（福祉・保育）」2.80, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」1.76となっており、全体的に充実度は低い傾向にあるが、特に「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は極端に低く、海外研修、留学の授業は充実していなかったと捉えられる。

### 3-2-10. 研究室・ゼミでの授業や活動

「観光」3.98, 「人文・ビジネス」3.87, 「国家資格（福祉・保育）」が4.28, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は2.93となっており、「国家資格（福祉・保育）」が高く、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は充実していないと捉えられ、分野によって開きが見られた。

総合的に見て、専門の授業は4分野において充実しており、資格取得は国家資格系で高く、研究室・ゼミは国家資格（福祉・保育）で充実していた。

表3-5 大学での教育プログラムの充実（分野別平均値）（上段は平均値, 下段はn）

分野	① 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導	② 大学での学習方法を学ぶ授業	③ 知識を広げ教養を身に付ける授業	④ 外国語を習得するための授業	⑤ 専門の授業（講義や演習）	⑥ インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験	⑦ 資格取得に関わる準備・指導	⑧ 卒業論文、卒業制作、卒業発表	⑨ 海外研修や留学のための機会や指導	⑩ 研究室・ゼミでの授業や活動
観光	2.88 60	3.32 60	4.00 59	3.37 60	3.93 59	3.08 60	3.38 60	3.58 60	3.34 59	3.98 59
人文・ビジネス	2.96 333	3.41 330	3.92 328	3.27 332	4.00 330	2.98 330	3.28 332	3.83 332	2.85 331	3.87 330
国家資格等 （福祉・保育）	2.94 85	3.47 85	3.95 85	3.29 84	4.22 85	3.48 84	4.11 84	3.95 84	2.80 81	4.28 83
国家資格 （栄養士・管理栄養士）	3.37 46	2.93 46	3.91 46	3.07 46	4.33 46	3.48 46	4.33 46	2.17 46	1.76 46	2.93 46
計	2.98 524	3.37 521	3.93 518	3.26 522	4.06 520	3.11 520	3.52 522	3.68 522	2.80 517	3.86 518

## 4. 大学の教育・指導と学生の学習

### 4-1. 大学の教育方法・指導の充実

大学で経験した授業の教育方法や指導には、どのような特徴があったのかを、「1. ほとんどなかった」、「5. よくあった」の5段階尺度で平均値を出した。表3-6で9項目ごとの分野平均値を見つめる。



#### 4-1-1. 学問的な理論や概念枠組みの授業

「観光」3.78, 「人文・ビジネス」3.53, 「国家資格（福祉・保育）」3.88, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.78で4分野ほとんど差はなく、どの分野においても学問的な理論、概念的枠組みの授業は一定に取り組みられていることがわかる。

#### 4-1-2. 経験的・実務的な知識の授業

「観光」3.85, 「人文・ビジネス」3.41, 「国家資格（福祉・保育）」3.81, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.02で, 「人文・ビジネス」は実務系授業が少なめで, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は実務系の授業が多いことがわかる。

#### 4-1-3. 学生の関心や理解度に配慮した授業

「観光」は3.56, 「人文・ビジネス」は3.35, 「国家資格（福祉・保育）」3.47, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.56であった。分野間における差異はほとんど見られず、理解度を考えた授業は幾分なされているが多くはない。

#### 4-1-4. グループワークなど学生が参加する授業

「観光」3.19, 「人文・ビジネス」3.36, 「国家資格（福祉・保育）」3.78, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.71で, 「国家資格系」はグループワークが多めで, 「観光」は少ない傾向にある。

#### 4-1-5. プロジェクト型・問題解決型学習

「観光」2.95, 「人文・ビジネス」2.91, 「国家資格（福祉・保育）」3.14, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が3.04で, 全体的に, プロジェクト型・問題解決型授業は多くはないことがわかる。

#### 4-1-6. 自分の意見や考えが求められる授業

「観光」3.15, 「人文・ビジネス」3.25, 「国家資格（福祉・保育）」3.51, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.27, 意見や考えを述べる授業は「国家資格（福祉・保育）」が若干高いが大差はない。

#### 4-1-7. 小テストやレポートなどの課題が出される授業

「観光」が3.59, 「人文・ビジネス」3.85, 「国家資格（福祉・保育）」3.76で, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が4.20で, 分野のなかでは「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が高い。

#### 4-1-8. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される授業

「観光」が2.63で, 「人文・ビジネス」と「国家資格（福祉・保育）」は同様に2.81, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が3.13, コメントが付されたきめ細かい授業は少ない傾向にある。

#### 4-1-9. フィールドワークや地域など学外と交流する授業

「観光」2.85, 「人文・ビジネス」2.80, 「国家資格（福祉・保育）」が3.16で, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は2.22で, 「国家資格（福祉・保育）」と「国家資格（栄養士・管理栄養士）」との差は

0.94ポイントで二者間に有意差が見られ、「国家資格（栄養・管理栄養士）」は学外と交流する授業は少ない傾向にある。

## 4-2. 大学の教育方法・指導の充実、分野ごとの特徴

大学の教育方法・指導の充実の状況を、4分野ごとにその特徴を見てみる。（表3-6）

### 4-2-1. 「観光」分野の特徴

「観光」の特徴としては、「経験的・実務的な授業」や「学問的・理論的な授業」は高めであるが、「フィールドワーク」、「プロジェクト型授業」や「小テストやレポート課題」は、4分野で「観光」が最も低い。

### 4-2-2. 「人文・ビジネス」分野の特徴

「人文・ビジネス」は、4分野の中で高数値、低数値が1か所もないところが特徴である。すなわち、際立って充実している点や充実していない点が見えないということである。「小テストやレポート課題の授業」が少々多めであるが、他は目立った特徴はみられない。「フィールドワーク等の授業」や「プロジェクト型授業」など能動的学習は少ない傾向にあることが分かる。

### 4-2-3. 「国家資格（福祉・保育）」分野の特徴

「学問的・理論的授業」、「グループワーク等」、「自分の意見や考えを求められる授業」、「フィールドワーク等の授業」の4点で高い数値である。座学授業だけではなく、能動的学習が多い傾向がうかがえる。

### 4-2-4. 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」の特徴

「経験的・実務的授業」、「小テストやレポート課題」で4点台の高い数値が示されたが、「フィール

表3-6 大学で経験した授業の教育手法

（上段は平均値、下段はn）

分野	① 学問的な理論や概念の授業	② 経験的・実務的な知識の授業	③ 学生の関心や理解に配慮した授業	④ グループワークなど学生が参加する授業	⑤ プロジェクト型・問題解決型学習	⑥ 自分の意見や考えが求められる授業	⑦ 小テストやレポートなどの課題が出される授業	⑧ 適切なコメントが付けられて課題などの提出物が返却される授業	⑨ フィールドワークや地域など学外と交流する授業
観光	3.78 59	3.85 59	3.56 59	3.19 59	2.95 59	3.15 59	3.59 59	2.63 59	2.85 59
人文・ビジネス	3.53 396	3.41 394	3.35 393	3.36 395	2.91 394	3.21 391	3.85 395	2.81 393	2.80 394
国家資格等 (福祉・保育)	3.88 81	3.81 79	3.47 81	3.78 81	3.14 81	3.51 81	3.76 80	2.81 81	3.16 79
国家資格 (栄養士・管理栄養士)	3.78 45	4.02 44	3.56 45	3.71 45	3.04 45	3.27 44	4.20 45	3.13 45	2.22 45
計	3.62 581	3.56 576	3.40 578	3.43 580	2.96 579	3.25 575	3.84 579	2.82 578	2.81 577

ドワーク等の授業」は先述のとおり極端に低い。この分野は、国家資格取得のための学習が重点的に行われているため、フィールドワークのような授業は展開が難しいのではないかと推測する。

#### 4-3. 大学の授業、活動へのエンゲージメント

前節は大学側が提供する授業やプログラムであったが、ここでは、学生自身がどのように取り組んだのか、学生のエンゲージメントについて分析をする。設問は、「大学が提供する授業・指導や各種の活動に対して、どの程度熱心に取り組みましたか」で、1「熱心に取り組まなかった」、5「熱心に取り組んだ」の5段階尺度で回答したものの特徴的な点のみを挙げてみる（表3-7）。

##### 4-3-1. 知識を広げ教養を身に付ける授業

「観光」4.00、「人文・ビジネス」3.83、「国家資格（福祉・保育）」3.83、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.69で全体的に高めであり、「知識を広げ教養を身に付ける授業」には、ある程度熱心に取り組んだと回答している。

##### 4-3-2. 外国語を習得するための授業

「観光」が3.14であるが、他の3分野は3を下回っており、特に、「国家資格（福祉・保育）」は2.77で、外国語の習得にはあまり熱心に取り組んではない。

##### 4-3-3. 専門の授業（講義や演習）

「観光」4.24、「人文・ビジネス」3.87、「国家資格（福祉・保育）」4.11、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.27で、専門の授業は、4分野とも全体的に高く、熱心に取り組んだことがわかる。

##### 4-3-4. インターンシップなど、仕事現場や地域での実習や就業経験

「観光」2.88、「人文・ビジネス」2.13、「国家資格（福祉・保育）」3.51、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.69で、「観光」、「人文・ビジネス」は低く、インターンシップ等就業体験には熱心に取り組んではない傾向にある。

##### 4-3-5. 資格取得

「国家資格（福祉・保育）」4.02、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.58と非常に高く、資格取得に熱心に取り組んだことが分かる。反面、「人文・ビジネス」は2.88と低く、資格取得に対して熱心に取り組む傾向にはなかった。

##### 4-3-6. 卒業論文・卒業制作・卒業発表

「観光」3.77、「人文・ビジネス」3.90、「国家資格（福祉・保育）」3.80、で、これら3分野に関して大差はないが、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は1.31と極端に低い数値となっており、この分野の特徴といえる。

#### 4-3-7. 海外研修・留学

「観光」2.40, 「人文・ビジネス」1.43, 「国家資格（福祉・保育）」1.18, そして「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は0.38と、4分野全体において調査項目の中で最も低い数値となった。海外研修・留学には取り組んでいない傾向がうかがえる。

#### 4-3-8. 研究室・ゼミでの授業や活動

「観光」3.97, 「人文・ビジネス」は3.86と, 「国家資格（福祉・保育）」が4.15, これら3分野においては高めの数値となったが, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は2.96と低かった。

このほかに, 学生生活上の取り組みへの熱心さに関しては, ⑩「部活やサークル活動, 学校行事」は「国家資格（福祉・保育）」が3.73で高く, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が2.76と低い。また⑫「友達との交流」は, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が2.00と極端に低い。⑬「授業外での教員との交流」は, 「人文・ビジネス」が2.93と低めであった。

さらに⑭「アルバイト」は, 「観光」が3.78, 「人文・ビジネス」3.60, 「国家資格（福祉・保育）」3.51, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」3.60で, 全体にやや高めである。

そして, ⑮「就職活動」は, 「観光」3.59, 「人文・ビジネス」3.52, 「国家資格（福祉・保育）」3.44と3分野ほぼ同じ数値であったが, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」のみ, 2.89で, 他の3分野に比べ低い。

表3-7 大学での授業・活動への取り組み度合（熱心に取り組んだか）

（上段は平均値, 下段はn）

分野	① 高校までの基礎学力を学び直す授業や指導	② 大学での学習方法を学ぶ授業や指導	③ 知識を広げ教養を身に付ける授業	④ 外国語を習得するための授業	⑤ 専門の授業（講義や演習）	⑥ 現場や地域での実習や就業経験	⑦ 資格取得	⑧ 卒業論文・卒業制作・卒業発表	⑨ 海外研修・留学	⑩ 研究室・ゼミでの授業や活動	⑪ 部活やサークル活動、学校行事	⑫ 友達との交流	⑬ 授業外での教員との交流	⑭ アルバイト	⑮ 就職活動
観光	2.75 59	3.43 58	4.00 59	3.14 59	4.24 59	2.88 58	3.54 59	3.77 57	2.40 58	3.97 59	3.46 57	3.20 59	3.53 59	3.78 59	3.59 58
人文・ビジネス	2.48 395	3.31 395	3.83 393	2.99 394	3.87 391	2.13 394	2.88 394	3.90 393	1.43 392	3.86 393	2.93 395	3.09 394	2.93 392	3.60 395	3.52 393
国家資格等 (福祉・保育)	2.56 82	3.28 81	3.83 81	2.77 81	4.11 81	3.51 81	4.02 81	3.80 80	1.18 80	4.15 81	3.73 79	3.62 81	3.62 79	3.51 80	3.44 80
国家資格 (栄養士・管理栄養士)	3.41 46	3.11 45	3.69 45	2.89 45	4.27 45	3.69 45	4.58 45	1.31 45	.38 45	2.96 45	2.76 45	2.00 45	3.29 45	3.60 45	2.89 44
計	2.59 582	3.30 579	3.84 578	2.97 579	3.97 576	2.52 578	3.24 579	3.67 575	1.41 575	3.84 578	3.08 576	3.09 579	3.11 575	3.61 579	3.47 575

#### 4.4. 大学の教育プログラムの充実と個人の取り組みの比較

大学が提供する教育・指導の充実と, 学生の教育・指導・活動への取り組みの熱心度合いを, 分野別の特徴を見ながら比較検討してみたい。

#### 4-4-1. 「観光」分野

図3-12に示すように「観光」は、「知識を広げ教養を身に付ける授業」と「研究室・ゼミでの授業や活動」は、大学が提供するプログラム、学生の取り組みの双方の平均値が4.0程度で高い。また、学生の取り組みが大学の提供するプログラムより高くなっているのが、「専門の授業（講義や演習）」で、大学3.93に対し、学生4.24と専門の授業には熱心に取り組む傾向が見られる。さらに、「卒業論文、卒業制作、卒業発表」、「資格取得に関わる準備・指導」においても、学生が熱心に取り組んでいる。

また、「海外研修、留学の機会」は、大学の充実度3.34と学生の熱心度合2.40との間に9.4ポイントと二者間に最も差が見られる。

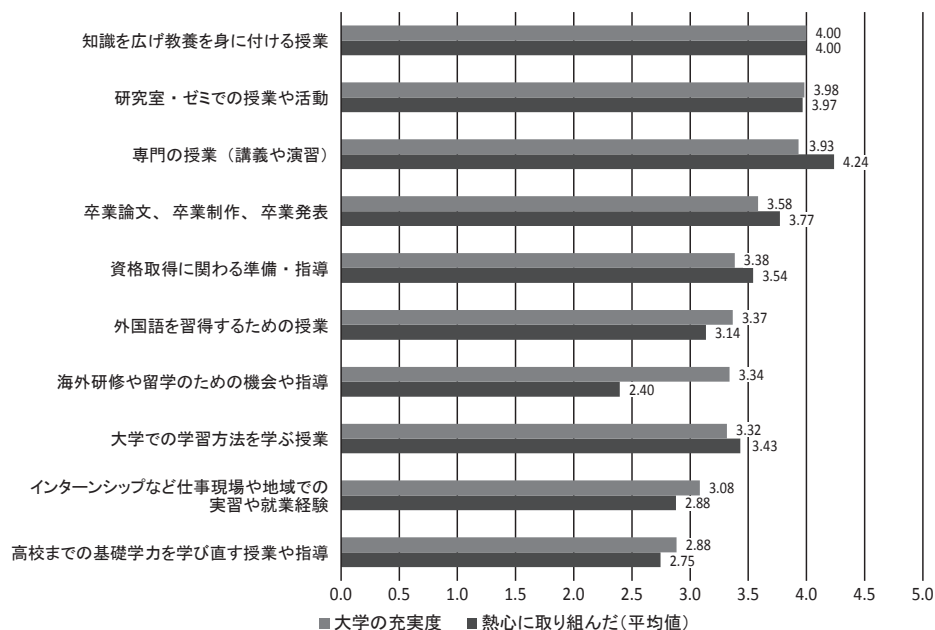


図3-12 「大学教育・指導の充実」と「本人の教育・指導、活動への熱心度」の比較（観光）

#### 4-4-2. 「人文・ビジネス」分野

「人文・ビジネス」は、図3-13に示すように「専門の授業（講義や演習）」の大学の充実度（平均値）は4.0と高く、学生の取り組みも3.87と高かった。大学のプログラムの充実より、学生の取り組みの熱心度合が若干高いものは、「卒業論文・卒業制作・卒業発表」で大学3.83、学生3.90ある。

大学のプログラム提供に対し、学生の熱心度合が低く開きがあるものは、「インターンシップなど、仕事現場や地域での実習や就業経験」、「高校までの基礎学力を学び直す授業や指導」、「海外研修、留学」で、最も差が大きかったのは、「海外研修、留学」であった。

#### 4-4-3. 「国家資格（福祉・保育）」分野

「国家資格（福祉・保育）」は、図3-14に示すように、他の分野に比べプログラムの充実度は全体的に高めであり、「専門の授業（講義や演習）」と「研究室・ゼミでの授業や活動」「資格取得に関わる準備指導」は大学側の充実度、学生の取り組みがどちらも4以上で充実度、熱心さ双方が高くなっているところで特徴が見える。また、「海外研修、留学」は、プログラムの充実2.80に対して、学生が熱心に取り組んだと答えたものの1.18で他分野同様有意差が見られる。



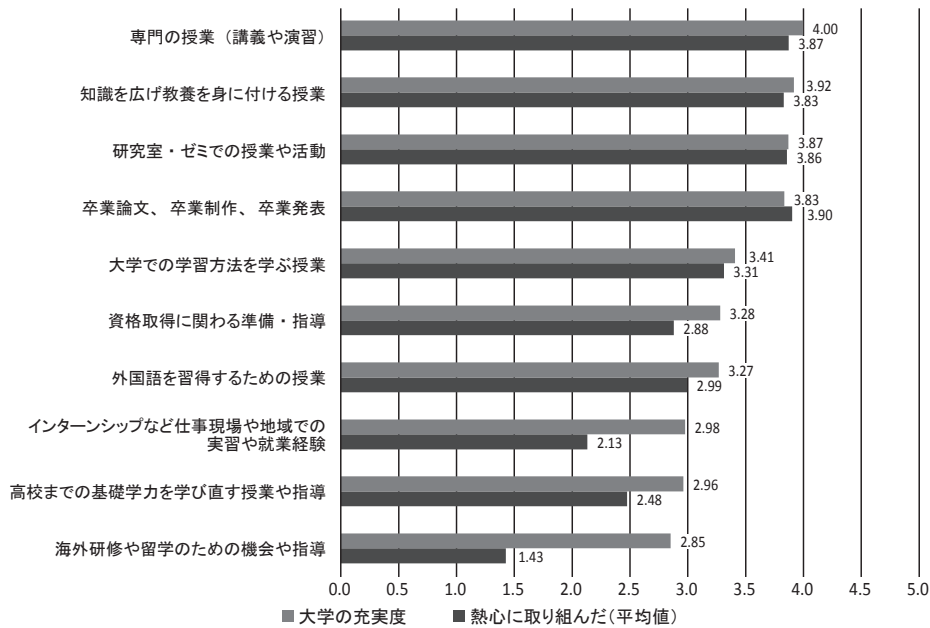


図3-13 「大学教育・指導の充実」と「本人の教育・指導への熱心度」の比較  
(人文・ビジネス)

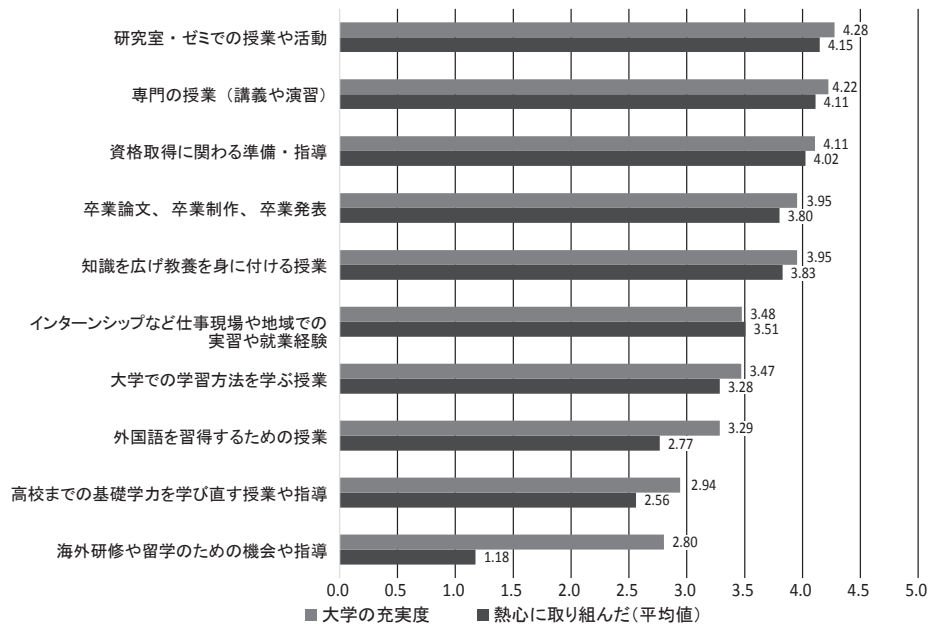


図3-14 「大学の教育・指導の充実」と「本人の教育・指導、活動への熱心度」の比較  
(国家資格(福祉・保育))

#### 4-4-4. 「国家資格(栄養士・管理栄養士)」分野

「国家資格(栄養士・管理栄養士)」は図3-15が示すように、「専門の授業(講義や演習)」と「資格取得に関わる準備・指導」が、大学側、学生側双方が4.0を上回る高い数値を示しているが、特に、「資格取得に関わる準備・指導」は学生の熱心度が4.58と、4分野において最も高く特徴づけられる。

反面、「卒業論文・卒業制作・卒業発表」は充実度も熱心さも極端に低く、さらに、「海外研修や留学」は大学のプログラムの充実も低い、熱心さも0.38で4分野の中で最も低く、この分野は海外研修・留学の機会には恵まれてはいないようである。



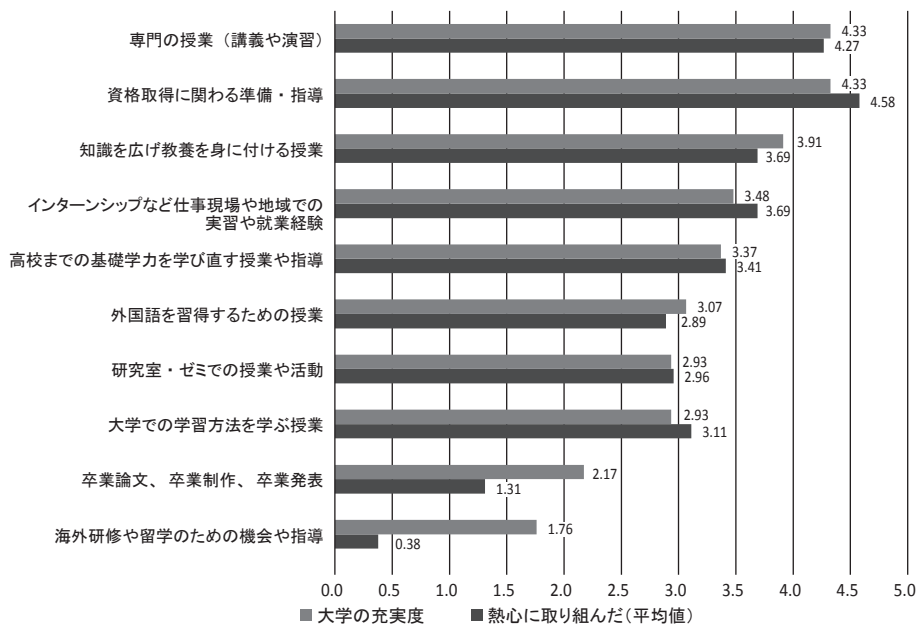


図3-15 「大学教育・指導の充実」と「本人の教育・指導への熱心度」の比較  
(国家資格(栄養士・管理栄養士))

## 5. 大学教育・学生の学習活動と満足度の関係

### 5-1. 大学への総合的な満足度

「総合的に振り返って大学に満足しているか」を表3-8で、「1 とても不満である」、「5 とても満足している」の5段階尺度で4と5の合計をしてみる。「観光」は57.2%、「人文・ビジネス」は65.8%、「国家資格(福祉・保育)」が86.0%、「国家資格(栄養士・管理栄養士)」が79.0%であった。最も満足度が高かったのは「国家資格(福祉・保育)」で、次いで、「国家資格(栄養士・管理栄養士)」であった。一方、「観光」の満足度は低いという結果であった。

表3-8 総合的に振り返って本学に対する満足度

分野	満足度					計	n
	1 とても不満である	2	3	4	5 とても満足している		
観光	0	11.9	31.0	28.6	28.6	100.0	42
人文・ビジネス	1.0	7.5	25.6	39.2	26.6	100.0	293
国家資格等(福祉・保育)	0	0.0	14.0	40.4	45.6	100.0	57
国家資格(栄養士・管理栄養士)	0	5.3	15.8	47.4	31.6	100.0	19
計	0.7	6.8	24.1	38.7	29.7	100.0	411

### 5-2. 学生の学習活動と満足度の関係

#### 5-2-1. 授業への出席・学習時間と満足度

在学中の授業への出席や学習時間と学生の満足度との間に相関関係があるのかを分析すると、表3-9に示すように、授業への出席と大学への満足度を Pearson の相関係数で見ると、0.187で正の相関関係にあるが、有意確率0で有意差は見られない。

授業以外での学習時間と満足度の関係は、相関係数0.096、有意確率0.051で、こちらも有意差は見ら

れない。すなわち、授業への出席が良く、授業時間以外に学習をした学生が、大学への満足度が高いというわけではないということである。

### 5-2-2. 成績と満足度

在学中の成績と満足度の相関関係については、相関係数 $-0.032$ 、負の相関関係にあり、有意確率 $0.514$ で有意差が見られた。すなわち、成績が良いとするものの満足度は低いということになる。

表3-9 学習時間、成績と満足度（相関係数）

	総合的に振り返って 本学に対する満足度	<i>n</i>
授業への出席	.187**	410
授業以外での学習時間(授業期間中)	.096	
在学中の成績	- .032	405

\*\* 1%水準で有意

### 5-3. 学生の多面的なエンゲージメントと満足度

#### 5-3-1. 学生のエンゲージメントと満足度

学生が熱心に取り組んだとするものと満足度の相関関係を見ると、表3-10が示すように、「研究室・ゼミでの授業や活動」が相関係数 $0.443$ 、「学生の関心や理解度に配慮した授業」が $0.417$ となり有意差が見られた。すなわち、研究室・ゼミでの授業や活動を熱心に行った学生は満足度が高いということである。さらに、「学生の関心や理解度に配慮した授業」を受けることで、満足度が高くなり、授業が影響を及ぼすことがわかる。

表3-10 学生のエンゲージメントと満足度（相関係数）

教育プログラム 熱心に取り組んだ (B4-1) / よくあった (B4-2)	総合的に振り返って 本学に対する満足度	<i>n</i>
研究室・ゼミでの授業や活動	.432**	374
学生の関心や理解度に配慮した授業	.417**	
学問的な理論や概念枠組みの授業	.384**	
経験的・実務的な知識の授業	.369**	
自分の意見や考えが求められる授業	.369**	
授業外での教員との交流	.361**	
グループワークなど学生が参加する授業	.360**	
プロジェクト型・問題解決型学習	.343**	
大学での学習方法を学ぶ授業や指導	.333**	
知識を広げ教養を身に付ける授業	.326**	
専門の授業（講義や演習）	.302**	
卒業論文・卒業制作・卒業発表	.285**	
フィールドワークや地域など学外と交流する授業	.282**	

\*\* 1%水準で有意

#### 5-3-2. 大学での教育プログラムの充実と卒業生の満足度

大学での教育プログラム、すなわち大学の教育・指導の充実と、卒業生の大学に対する満足度との相関関係を見てみる。表3-11が示すように、「知識を広げ教養を身に付ける授業」が $0.518$ と最も高

い満足度を示している。次いで、「専門の授業（講義や演習）」0.498,「研究室・ゼミでの授業や活動」が0.484,「大学での学習方法を学ぶ授業」0.442,「部活やサークル, 学校の行事」0.424,「資格取得に関わる準備・指導」0.421の順であった。「知識を広げ教養を身に付ける授業」,「専門の授業（講義や演習）」という, 大学として本来の教育である専門の授業が満足度を上げていることがわかる。

表3-11 大学での教育プログラムの充実と満足度（相関係数）

教育プログラム とても充実していた (B3)	総合的に振り返って 本学に対する満足度	<i>n</i>
知識を広げ教養を身に付ける授業	.510**	359
専門の授業（講義や演習）	.493**	
研究室・ゼミでの授業や活動	.479**	
大学での学習方法を学ぶ授業	.431**	
資格取得に関わる準備・指導	.429**	
部活やサークル, 学校の行事	.421**	
卒業論文, 卒業制作, 卒業発表	.398**	
学習支援	.392**	
就職支援	.388**	

\*\* 1%水準で有意

## 6. 小 括

### 6-1. 学生のアウトカム（満足度）と学習時間, 出席と成績, 多面的なエンゲージメント

授業への出席が良く, 授業以外の時間に学習をした学生の大学への満足度は高くはなかった。学生時に真面目に学習に取り組んだ学生が, 必ずしも大学に対して満足しているということではない。大学への満足度が最も高かった「国家資格（福祉・保育）」は, 学習時間が最も低い。すなわち, 学習時間が満足度を規定する要因として影響を及ぼす確率は低いということになる。小方（2008）は, 授業の出席率は成績を高める要因として機能しているということであるが, 授業の出席率や成績は大学への満足度へと連なり影響するというにはならなかった。

4分野で関係性を見ると, 成績が上位であると認識している割合は, 「観光」59.3%, 「人文・ビジネス」48.9%, 「国家資格（福祉・保育）」40.2%, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」26.7%の順であり, 総合的満足度の順は「国家資格（福祉・保育）」86.0%, 「国家資格（栄養士・管理栄養士）」79.0% 「人文・ビジネス」65.8%, 「観光」57.2%, で, 成績に対する認識と満足度とはほぼ反比例していることが分かり, 成績が満足度に影響を及ぼす確率は低い。成績の負の相関関係に関しては, 成績の低い学生が大学での教育により伸びた場合の満足感, 成績の高い学生はより高度な教育への願望に対する不満足感などを含め, さらに分析が必要となる。

学生の多面的なエンゲージメントと満足度を見ると, 「研究室・ゼミでの授業や活動」や「学生の関心や理解度に配慮した授業」に熱心に取り組んだと答えた者の大学への満足度が高かった。研究室やゼミという少人数体制で個人の存在が価値づけられる授業が, 学生の満足感に影響を及ぼす傾向にある。さらに, 学生の関心や理解度という観点から, 教員主体ではなく学生主体に考えられた授業には熱心に取り組むという点と, それが満足度を規定する要因になる可能性が高いということがわかる。

## 6-2. 学生のアウトカム（満足度）と授業の充実、カリキュラムと教育支援

大学での教育プログラムの充実においては、「知識を広げ教養を身に付ける授業」、「専門の授業（講義や演習）」、「研究室・ゼミでの授業や活動」と満足度に相関関係が見られた（表3-11）。表3-5が示すように、大学での教育プログラムが充実していたと答えているのも、4分野とも同じ項目で数値が高く、教育プログラムの充実が満足度に並行的に影響を及ぼす傾向が見られた。

また、学生のエンゲージメント、熱心に取り組んだものの最上位要因が「研究室・ゼミの授業や活動」で、大学側が準備していた教育プログラムや学習制度の満足度の相関と比較すると、こちらにも「研究室・ゼミの授業や活動」が入っており、これが学生の満足度を規定する要因になり得るといことがわかる（表3-12）。

さらに4分野でみると、総合的満足度の高い「国家資格（福祉・保育）」、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」と、大学での教育プログラムの充実度を比較すると「資格に関わる準備・指導」では、「国家資格（栄養士・管理栄養士）」、「国家資格（福祉・保育）」の順で高い。他の教育プログラムでも両分野とも充実度が高いが、1点だけ明らかな相違が見られる。「研究室・ゼミでの授業や活動」が「国家資格（福祉・保育）」は4分野で最も高いが「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は4分野で最も低い。この点が全体的に「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が高い数値を示していたにもかかわらず、満足度の順位で「国家資格（福祉・保育）」を1位に押し、すなわち順位を逆転する要因になっているのではないかと考える。上述のとおり「研究室・ゼミでの授業や活動」が満足度に関連性があるとするなら、この逆転現象により理由づけられると見ることできる。

また、教育プログラムの充実が全体的に低い数値となった観光分野は、総合的満足度も4分野で最も低かった。したがって、教育プログラムの充実が大学教育への満足度を規定する要因になり得ると考える。

表3-12 教育指導・学習と卒業生の満足度の相関関係順位比較

順位	大学の教育指導の充実	授業・活動への取り組み度合
1位	知識を広げ教養を身に付ける授業	研究室・ゼミでの授業は活動
2位	専門の授業（講義や演習）	学生の関心や理解度に配慮した授業
3位	研究室・ゼミでの授業や活動	学問的な理論や概念枠組みの授業

### 〈参考文献〉

- 小方直幸（2008）「学生のエンゲージメントと大学教育のアウトカム」, 日本高等教育学会編『高等教育研究』第11集, 45-61頁
- 葛城浩一（2006）「在学生によるカリキュラム評価の可能性と限界」, 日本高等教育学会編『高等教育研究』第9集, 161-180頁
- 堺完・木村拓也・西郡大・山田礼子（2015）「短期大学におけるエンゲージメントの構造－重回帰分析, 分散分析, 多重対応分析を用いた検討」, 『短期大学コンソーシアム九州紀要』, vol.5, 短期大学コンソーシアム九州研究センター, 15-24頁
- Pascarella, Ernest T. and Terensini, Patrick T., 2005, “How college affects students”, vol.2, Jossey-Bass, higher education. series.